

上にあるものに心を留めなさい

1 さて、あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。2 上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれなないようにしなさい。3 あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです。4 あなたがたの命であるキリストが現れるとき、あなたがたも、キリストと共に栄光に包まれて現れるでしょう。

コロサイ3:1-4を見ていく前に、心の準備体操をしましょう。太陽は地球の周りを回っているのでしょうか、それとも地球が太陽の周りを回っていますか？この質問はあまりにも簡単だと思われるでしょう。地球が太陽の周りを回っているのは明らかですね。私たちは皆、これを事実として学びました。しかし、人類の歴史で長い間、人々は地球が宇宙の中心であると考えていました。太陽が昇る、沈むという表現にもそれが表れています。では、地球が太陽の周りを回っていると人間が気付き始めたときに何が変わったのでしょうか。地球が太陽の周りを回っていることに気づいたから地球が太陽の周りを回り始めたわけではないですね。地球は常に太陽の周りを回っているのです。太陽は太陽系の中心であり、人類がそれを否定していたときもそれは真実だったのです。

人間と神との関係においても、同様のことが言えます。人は神を必要としています。人は神に似せて造られた存在です。人はその存在を神に依存しています。人は神から道徳律を受け、その他にも多くのものを受けています。しかし、人類は神に反抗し、生きるために神は必要ないと考えています。人が神を必要とする真理は人の心に書かれています。人はその事実を否定しています。

クリスチャンである私たちは、キリストによって神との正しい関係に戻されました。コロサイ3:1-4でパウロは、続けてクリスチャンのあるべき姿と偽りの教えを比較しています。しかしパウロはここから、キリストがこの世のものよりもはるかに優れていることについて触れていきます。偽りの教えは肉を止めることはできませんが（コリント2:23）、キリストを中心とした生活を送るクリスチャンは、肉に溺れるために生きているわけではありません。イエスとつながっているがゆえに、クリスチャンの人生は地上のことではなく、天のことが中心になるのです。つまり、キリスト者の人生は、キリストの苦しみと栄光と結びついているのです。私たちは「十字架の確信」というべきものを持ち、再臨の約束を人生の重心にしています。

コロサイの手紙によると、クリスチャンは全く新しい拠り所を持つことになります。コロサイ3:1には、それまでの節で述べてきたことと比較して「さて、あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから」とあります。偽りの教えやそのすべての罫は肉を止めることはできません。しかし、キリスト・イエスにある人は違います。「あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから」私たちの人生は変わったのです。古い性質は、繁栄、権力、快樂

を望んでいました。私たちの新しい性質は、キリストという方とその御業に焦点を合わせます。パウロは、私たちは古い自分とその欲望に対して「死んだ」のであり、「あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです」と述べています。これはクリスチャンにとって、本質的に自己中心的な生活から、キリストを中心とした生活へと人生の焦点が移ったことを意味します。今日の聖書箇所では、これを「上にあるものに心を向ける」あるいは「上にあるものを求める」と表現しています。（もしあなたがクリスチャンなら）人生は神の方向に向いているのです。

私たちの人生の新しい重心、あるいは新しい方向性は、すべてキリスト・イエスの御業によるものです。キリストのおかげで、私たちは新しいいのちを得ました。キリストは、罪の奴隷状態から、そして神の御怒りにあった私たちを買い取ってくださいました。私たちにいのちを与えてくださったのです。そして、キリストは私たちを守られます（3節「あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです。」）。

イエスは苦しまれ、死なれ、そしてよみがえられました。その後、父の右の座にのぼられました。そして、イエスは再び来られるのです。わたしたちはこの中に自分自身を見るべきです。この全てのうちに私たち自身が含まれているのです。これが、私が「十字架の確信を持つべき」と言った意味です。イエスの死と復活は、イエスが私たちのために新しいいのちを買い取ってくださったことを意味します。私たちのいのちはキリストの中に隠されているのです。キリストにあって、私たちはキリストの苦しみを共有し、世に対して死に、新しいいのちによみがえり、私たちの心や感情は「上にあるもの」に向けられます。

そして、キリストが戻られる時、私たちはその栄光にあずかるのです。他の人たちと同じように人生を歩むではありません。私たちは苦しみながらも、キリストにあって苦しんでいるのですから、希望もなく苦しむことはありません。自分のために生きるのではない者として、私たちは働き、結婚し、子どもを育て、人生を歩んでいきます。私たちのいのちは神の内にキリストとともに隠されているのですから。キリストが栄光のうちに戻ってくるとき、私たちはキリストとともにいるのです。キリストの栄光のうちにキリストとともにいること以上のことを世が与えることなど何があるでしょう。

実際、どうなのでしょう？今お話ししていることの問題は、私たちが毎日この現実を感じていないことです。皆さんはどうかわかりませんが、私自身は世に打ち勝っている途中だと感じるものがあまりありません。日常生活のプレッシャーに押しつぶされそうです。そんな風を感じる私達に、どのような励ましがあるのでしょうか。まず、キリスト・イエスの勝利が近づいていることを感じられなくても、それが近づいていないわけではありません。この世で何が起こるかは、私が考えたり感じたりすることとはほとんど関係がないのです。非常に疲れてヘトヘトなとき、私は励ましを受けいれにくいと感じます。特に誰かが私が価値ある者だと言ってくれるときにはそうです。言い訳はたくさんありますし、自分の心の中で何が起きているのか、誰よりもよくわかっています。とはいえ、私に励ましを与えることができ、与えてきてくれたことのひとつは、神がまだこの世で（そして私の人生で）御心を働かせておられるということです。神の宇宙的な力も、いつも励ましの源になるわけでもないようですが、要は、私の人生を前進させているものも、私の采配によるのではないということです。それは神から来るので

す。そして、神は決して疲れることはありません。彼の御心は常に実行されます。自分の未来をコントロールできるかどうか心配する必要はないのです。自分の人生を神の手に委ねて、落ち着いて毎日を過ごすことができるのです。

第二にできることは、地上にあるものではなく、上にあるものに目を向けることです。上にあるものに目を留めよというパウロの命令は、言うまでもないことのように思われます。私たちはキリストの内にいるのですから。キリストの内に入れば、キリストの内に入らない人の人生に見られる世俗的な情熱や欲望に抵抗するのに十分であるはずですが。一方で、私たちが疲れ果てているときには、まさにこのような励ましが必要でもあります。私たちは、これらすべての素晴らしい約束に覆われています。新しいいのちが与えられ、罪が赦されたのです。それだけで十分でしょうか。これはとても良いことで、それで十分なのですが、私たちはまだ誘惑されます。前にも言ったと思いますが、私たちの罪と誘惑の問題は、私たちの内側から、そして世から来ます。パウロは、誘惑や偽りの教えがやってきたら、「上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。」「上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれなないようにしなさい。」と言っています。まず、パウロの2つの命令を1つにまとめることができるでしょう。上にあるものを求めることと、上にあるものに心を留めることは、ニュアンスが違うかもしれませんが、長くなるのでひとまとめにしてみましよう。どちらも「上にあるもの」に焦点を合わせており、同じ力が働きます。簡単に言えば「求める」「心を留める」というのは、「上にあるもの」に私たちの全焦点を合わせるということです。しかし、焦点を合わせるだけでは、あまり十分ではありません。パウロはクリスチャンにこれらのことに注意を向けるよう呼びかけています。別の言い方をすれば、クリスチャンは、上にあるものを熟考し、それに心を留め、心を巡らせるようにとされているのです。このパウロの命令にはもう一つの意味合いがあり、それは、私たちの生活をこれらの上に据えるよう努力するようというものです。つまり、パウロが「上のものに目を向けなさい」と言ったのは、自分の人生を天のものに集中させなさいということです。このように、クリスチャンとしての生活の中心を天のものに置くべきだと言うことで、重要な点を捉えてみましょう。一つは、私たちがキリストの内にいるならば、人生はすでに神の方向に向かっているという事実です。心を改めることそのものが、罪人を神のところに連れてきて、キリストにある新しいいのちを与えるという神の御業なのです。この現実には、クリスチャン生活の中心がキリストであることを意味します。

もう一つ重要なことは、クリスチャンは自分のこれらの真理に人生の中心を置くことを積極的に求めなければならないということです。自動的なものではありません。これにはいろいろな理由がありますが、一番簡単な考え方は、聖句本文そのものです。パウロは「地上のことではなく、上にあるものに心を留めなさい」と言っています。地上のものに心を向けてはならないと言わなければならないのは、それが自然なことだからです。私たちが生まれてきた罪深い状態は、私たちがどのように考え、何を望み、誰を人生の内に求めるかについて、いまだに力を持っています。パウロは、罪の性質に対抗する策として、天にあるものに心を固定することを挙げています。クリスチャン生活を長く歩めば歩むほど、よりキリスト・イエスを見つめるようになるべきです。私たちの人生のすべてが、少しずつ天に定められているものの周りを回るようになります。私たちの人生の重心は、天にあるものであるべきなのです。

では、上にあるものとは何でしょうか。天にはたくさんの素晴らしいものがありますが、今日はそのうちのいくつかしか紹介できません。例えば、天では真理、善、そして美が発揮されています。ほとんどの人は、美しさは見る人の目の中にあると信じています。あるいは、善は文化的なものだと考えられています。また真理は主観的なものだと考えられています。これは、人々がいかに欺かれているかを示しています。真理、美、善はすべて神から来たものであり、神の本質を反映しています。真理は個人的なものとすることもできますが、あなたにとって真実なことが、私にとって真実でないということはありません。真理は人間の創造物ではないので、変化することはありません。善と美についても同じことが言えます。美しさには、何か超越したものがあります。自然の美しさ、あるいはそれを映し出すものは、私たちの心をつかみます。真の美は、栄光に満ちています。目がくらむほどに歓喜させてくれます。人間の美しさや地上のものは衰えますが、神の栄光は決して衰えることなく、汚されることもありません。天地創造において、神はお造りになったものを良いと言われましたが、それは墮落によって腐敗させられました。しかし、世を秩序づけ、人の心に律法を置いた心は、天にあります。実に私たちは、神の善と心理、美に心を合わせなければならないのです。

天で私たちが心を向けるべきもう一つのもは、神の恵みです。主があなたや聖書に出てくる人たちにどのように憐れみをかけてくださったかを考える時間を持ちましょう。主がどれほど私たちにしてくださったかを思えば、私たちは人生に不平を言ったり、何か「もっと良いもの」を探したりすることが難しくなります。

しかし、天には、こうしたものよりもずっと私たちの心に近いものがあります。実際は、天には神のご性質に関するどんな美德や幻よりも、私たちにとって尊い人がいると言うべきかもしれません。肉となった神の御言葉は、高いところにおられる御父の右に座しています。主は私たちのためにとりなされます。私たちを手のひらに乗せ、その手から私たちを奪い去るものではありません。私たちの視線は、まさに救い主のおられる天にあるものに向けられるべきなのです。私たちはすべてのことにおいて救い主を求めなければならないからです。

私たちの全存在は、キリスト・イエスの中に確保され、隠されています。私たちは、キリストの再臨と、キリストの栄光の中で主と共にいられることを待ち望んでいます。私たちはキリストの再臨を待つ間、自分の人生の拠り所を天にあるのものにするのです。神のご性質、神の恵み、そして私たちの救い主に心を留めることによって、私たちの人生は少しずつ救い主の姿に変えられていきます。私たちの人生が救い主の姿に変えられていくにつれて、私たちの願いも、考えていることに合わせて変わっていきます。これは自然な過程ですが、自然に始まるわけではありません。すでに見てきたように、罪は私たちの自然な状態です。私たちのたましいの情性を断ち切るものが必要なのです。私たちが神と御子に敵対しているところに、神の恵みが私たちの心に現れてくれるのです。神の御業は、私たちを新しい方向へ導いてくれます。もしかしたら今日ここに、自分がキリストに従っているかどうかわからない人がいるでしょうか。主イエスに信頼することをお勧めします。応答が遅れることがないように。あなたは、天の現実を見るために使える時間を失っているのです。キリストを信頼している私たちは、この天のものを求めているはずですが。あなたはどうですか？上にあるものに心を向けるために、どのようなことをしていますか？他の人が欲しがっているものに引っ張られる古い自分との葛藤

を感じていると思いますが、クリスチャン的なものを求める自分の心をどこで見たでしょうか？例えば、毎週教会に来ることに時間を割くことは、最初は大変だったかもしれませんが、来る回数が増えれば増えるほど、簡単にできるようになります。皆さんの人生には、このような新しい願望の証拠となるものがもっとあると思いますが、地上の願望から目をそらす必要がありそうな分野はどこでしょうか？人生の中で、キリストとその御言葉を中心に据えることが困難な領域はありますか？このような質問を自分に投げかけてみることをお勧めします。私たちの心は欺くものですから、信頼できる他の人にも聞いてみてください。神は、私たちのうちに偉大なわざを成し遂げてくださり、私たちはもう罪に縛られることはありません。心をキリストに向けて生きていきましょう。